[illegible]

[illegible]

[illegible]2009[illegible]Martin St-Amant (S23678)[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]–[illegible]–[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
【http://www.um.u-tokyo.ac.jp/web_museum/ouroboros/v19n3/v19n3_nouchi.html】

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

息を知ることとなります。

野内家の人達は与吉の旅費のために１０年かけて１００万円を集め、ついに１９６８年、与吉は福島県大玉村に５２年ぶりに帰郷できることとなりました。

与吉の両親はすでに他界していましたが、兄弟や親戚達が歓迎してくれました。

日本に着いた与吉は、「電気は着いたか？」と質問しました。与吉の中で、時間は当時のまま止まっていたのです。

日本滞在中は新聞やラジオにも出演し、半世紀ぶりの帰郷に「現代の浦島太郎」と日本でも大きな話題となりました。

村人に見守られる中、クスコに骨を埋める

家族は日本に戻るよう説得しましたが、自分の帰りを待つ１１人の子供を想い、ペルーのクスコに戻ります。そしてクスコに戻ったわずか２カ月後の１９６９年８月２９日、家族と２００人の村人が見守る中その生涯を終えました。

こういったマチュピチュ村と鉄道の歴史そしてそれに尽力した日本人の物語は余り知られていませんでした。

与吉の孫の一人である野内セサル良郎は、この興味深い事実を一人でも多くの方に知ってほしいと、活動を続けています。

なぜ彼は、自分が生まれる６年も前に亡くなっていた祖父の事を語ろうとするのでしょうか。

「それは祖母が繰り返し祖父の話を聞かせてくれていたからです。『あなたのおじいちゃんは責任感の強い人で、村の裁判官もやっていたんだよ』などと祖母から話を聞くうちに、私の中で祖父は英雄になっていた。日本で働きながら、名古屋の国際交流団体でマチュピチュ遺跡などペルー文化紹介の講師をしてきたのも、祖父に対する思いがあったからです」とセサル良郎は応えています。

故郷がマチュピチュと姉妹都市協定

野内与吉資料展示室

〒969-1302 福島県安達郡大玉村玉井字西庵183
大玉村農村環境改善センター 2階 視聴覚室内

野内与吉の故郷である福島県大玉村に2017年に開設。現在は村の公共施設に移転。与吉の遺品である手作り工具やペルー移民の歴史などを展示しているほか、ペルーの民族衣装の試着コーナーもあります。入館無料。

開館時間:9:30～16:30（土日祝日休み）
＊開館時間はホームページで確認、
または右記にお問い合わせください。
10名以上は団体予約が必要です。

【問い合わせ・団体予約先】一般社団法人 野内与吉資料館
TEL:0243-24-1939
E-mail: nouchi.yokichi.museum@gmail.com
https://oscar-nouchi-yokichi.wixsite.com/memorial-museum

故郷に作られた野内与吉資料展示室を報じた「海外移住史料館だより」５１号
（https://www.jica.go.jp/jomm/newsletter/pdf/dayori51.pdf）

与吉の故郷である福島県大玉村は、２０１５年にマチュピチュ村と友好都市協定を結んでいます。世界的に知名度の高いマチュピチュ村にはこれまで世界各地の自治体から友好協定締結を求める声がありましたが、緑の深い大玉村を初めての提携相手として選んだのでした。

□□□